新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染予防と制御

暫定ガイドライン（随時更新）

2022 年 4 月 25 日　改定版　キーポイント

原文（英語）：

Infection prevention and control in the context of coronavirus disease (COVID-19)

A living guideline

24 April 2022

https://www.who.int/publications/i/item/WHO-2019-nCoV-ipc-guideline-2022.2

第 3.0 版更新箇所：パート 1　医療現場、マスク使用

エグゼクティブサマリー

このガイドラインについて

2019 年版 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染予防と制御 暫定ガイドライン（随時更新）は、COVID-19 パンデミック以降作成出版された感染防止対策（IPC）に関する専門的なガイダンスを統合したものである。この文書は医療現場及び地域における IPC に関して最新のエビデンスに基づき、2 部構成で推奨事項を提供している。パート 1 は医療現場における IPC の推奨事項について述べ、パート 2 は地域における推奨事項について述べている。方法論のセクションでは、ガイドライン作成にあたり使われた方法論のアプローチについて議論しており、特定の定義についての助けとなる用語集を提供している。付録がこの文書の末尾にあり、医療現場におけるマスク利用と子どものマスク利用に関するエビデンステーブルが掲載されている。随時更新の本暫定ガイドラインは、オンラインプラットホーム（MAGICapp）を通じて作成、普及、更新されている。ガイドラインに現在の推奨を載せつつ、新しい内容にも焦点を当てながら流動的に更新されるエビデンスと推奨事項を含んだ、ユーザにやさしいフォーマットと使いやすい構造になっている。

本ガイドラインは COVID-19 に関して現在及び現在進行形の疫学的な状況やオミクロン株、集団免疫などの要因、ワクチンの入手可能性や接種、COVID-19 パンデミックに関する他の文脈的な要因を含めた変異株の出現を考慮している。

このガイドラインの対象は、政策立案者や公衆衛生の専門家、国・施設レベルの IPC 専門家、医療施設の管理者、部門管理者などの医療関係者である。

背景

それぞれの国では COVID-19 パンデミックについて、種々の要素つまり重症急性呼吸症候群の程

度、コロナウイルス（SARS-CoV-2）の流行具合、集団レベルの免疫、対策を調整するための機敏さや取り入れる許容力により、異なる状況にある。パンデミックは続いており、ウイルスは変異しているため、感染拡大の程度の変化や抗原性の変化、状況に対応する医療システムの許容力のためには、IPC や公衆衛生学的、社会的対策に関連した政策の調整が必要となる。国の政策はエビデンスに基づいて迅速に提供されるべきであり、この他の要素の視点にも基づいて必要に応じて調整されるべきである。オミクロン株に関するさらなる情報は、技術的な文書: Enhancing response to Omicron SARS-CoV-2 variant（新型コロナウイルス オミクロン株への対応を強化する：専門用語と加盟国における優先的な行動）（2022 年 1 月 21 日）に掲載されている。

新たな推奨事項

この更新版では次の推奨が含まれている。

1) SARS-CoV-2 のクラスター感染が発生しているあるいはそれが疑われるエリアの医療施設で常にマスクを着用する強い推奨。
2) SARS-CoV-2 の散発感染例が発生しているあるいは疑われるエリアにおいては、対象を絞ったマスクの連続使用を医療施設に勧める条件付き推奨
3) COVID-19 患者をケアする状況においては、微粒子用レスピレーターマスクや医療用マスクの使用という条件付き推奨
4) エアロゾル発生手技（AGP）における微粒子用レスピレーターマスク使用を現在の条件付き推奨から強い推奨に更新すること。マスクフィットに関する質の高い医療実践についての記述（Good Practice Statement）も含まれている。

新しい推奨を理解する

エビデンスを推奨に移行する際に、ガイドライン作成グループ（GDG グループ）は関連した有益性と有害性を評価するエビデンスの統合や価値観・選好、資源の影響、入手可能性や実行可能性についてを併せて考慮した。

推奨事項の更新

2021 年 12 月に発行された「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染予防と制御　随時更新ガイドライン 第 1 版：地域におけるマスク利用」では、地域におけるマスク利用について新しいアドバイスを提供した。この更新版は、2020 年 12 月に発行された「新型コロナウイルス（COVID-19）に関わるマスク使用」による既存の推奨に置き換わっている。

第 2 版は 2022 年 3 月 7 日に WHO と UNICEF（国連児童基金）との共同で作成され、この更新版では子どものマスク使用に関するアドバイスが掲載されている。COVID-19 を背景とした子どものマスク使用に関する推奨は、2020 年 8 月に「新型コロナウイルス（COVID-19）に関わるマスク使用に関するアドバイス 暫定ガイダンス」の付録資料として初めて発行された。第 2 版にあたる随時更新ガイドラインは、今までのすべての COVID-19 下における子どものマスク使用の推奨事項に置き換わっている。

ガイドライン作成

GDG グループは、IPC、疫学、感染症、小児、水、衛生、工学、空中生物学、医療提供者の専門家を含んでいる。このグループは男女や地域差を考慮しバランスが取られている。別の GDG グループは特定の状況や集団について取り組むために召集された（著者、投稿者、謝辞のセクションを参照）。方法論学者はガイドライン作成にあたり助言を行い、推奨を取り決める際の GDG グループをサポートした。

このガイドラインは、信頼できるガイドラインの作成の基準と方法に沿って開発された。GDG グループは推奨を作成するにあたり、個々人の患者の意向を考慮するとともに、資源の影響や入手可能性、実行可能性、平等性や人権についても考慮している。GDG グループに関する追加の詳細は方法論セクションを参照。このガイドラインは推奨、査定、開発、評価の格付け（GRADE）アプローチと、エビデンスから決定のフレームワークに基づいて作成された。WHO Quality Assurance of Norms and Standards department は、レビュープロセスに関して出版されている迅速なシスティマティックレビューを特定することを補助した。必要な場合は、WHO スタッフや委託された外部専門家が、特定の質問に対処するために迅速システマティックレビューを実施した。パンデミックが急激に変化する性質上、統合されたエビデンスの中にはプレプリントも含まれている。さらなる詳細については方法論セクションで説明している。

更新と情報へのアクセス

このガイドラインとそれ以前のバージョンは、WHO ウェブサイトと MAGICapp を通じて入手可能である（インターネットアクセス権のある限られた読者へのオンライン上または PDFF 閲覧）。

© World Health Organization 2022. Some rights reserved. This work is available under the CC BY-NC-SA 3.0 IGO licence

WHO reference number: WHO/2019-nCoV/ipc/guideline/2022.2

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が疑われた、あるいは確定した場合の医療ケアにおける感染予防と制御

暫定ガイダンス　付録資料

2021 年 10 月 1 日版　キーポイント

原文（英語）：

Annex to Infection prevention and control during health care when coronavirus disease (COVID-19) is suspected or confirmed

Interim guidance

1 October 2021

https://www.who.int/publications/i/item/WHO-2019-nCoV-IPC-Annex-2021.1

キーポイント

WHO は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）疑い例または確定例に対するケアをする医療者に対して以下の内容を推奨する。これらは GRADE プロセスを通じて制定された。

推奨

- 医療用マスクは接触予防策及び飛沫予防策の一貫として COVID-19 疑い例または確定例の患者がいる部屋に入室する前に他の個人用防護服と共に着用すべきである。
- エアロゾル発生手技（AGPs*）を行うあるいは COVID-19 疑い例または確定患者に対して AGP が定期的に行われている環境においては微粒子用レスピレーターマスクを着用するべきである。

条件付き推奨、確実性の非常に低いエビデンス

- コロナウイルス感染予防が可能かつ広く活用できる最も認知された方法として、医療者の価値観や選好に基づくと、（AGP が行われていない環境も含めて）COVID-19 患者をケアする全ての環境において医療用マスクの代わりに微粒子用レスピレーターマスクを使用してもよい。

備考

重要度の高い医療行為に関する記述

- 適切なマスクの着用は確実に行うべきである（微粒子用レスピレーターマスクに対しては着用時のフィッティングや密着の確認を通じて、医療用マスクについてはマスクの周囲からの空気の漏れを減らす手技を通じて行う）。

例：集中治療室（ICU）、集中治療室に準じた環境、救急科

* 現時点で AGPs に関する WHO のリストには、気管挿管、非侵襲的補助換気（例えば、BiPAP：バイレベル気道陽圧ベンチレーターや CPAP：持続気道陽圧）、気管切開、心肺機能蘇生、挿管前の用手換気、気管支鏡検査、高張食塩水吸入誘発による喀痰吸引、歯科や剖検に伴う手技が含まれる。さらに、口腔ケアにおいては以下が全て AGPs と捉えられている。三方弁や噴霧器など飛沫を生み出す器具、超音波スケーラーと研磨を伴う歯のクリーニング、超音波スケーラーによる歯周治療、ハイスピードまたはロースピードハンドピースを用いたあらゆる歯科の手技、直接的あるいは間接的修復と研磨、クラウンとブリッジの最終的なセメント合着、根管治療、外科的抜歯とインプラント。ネブライザー治療や高流量酸素治療によって発生したエアロゾルや他の手技（経鼻胃管、気道浄化のための吸引やスワブを使用する手技）がエアロゾル発生のリスクを伴うかについてはエビデンスが欠如あるいは質の低いエビデンスしかないため、未だ明らかとなっていない。

WHO は、この暫定ガイダンスに影響を与える可能性があるあらゆる変化に対し、状況の監視を注意深く継続する。変化が生じた場合、WHO は更新版を発表する。そうでない場合、この暫定ガイダンスは発行日から 2 年をもって失効とする。

© World Health Organization 2021. Some rights reserved. This work is available under the CC BY-NC-SA 3.0 IGO licence.

WHO reference number: WHO/2019-nCoV/IPC/Annex/2021.1